一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース

【 NO.141 】2010年1月発行

祝「学会評議委員会」誕生

巻頭言

理事（学会評議委員会担当）　原　伸一

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、新しい年をどのように迎えられましたでしょうか。

さて、当士会は2008年（平成20年）12月4日に念願の法人化を成し遂げ、2009年（平成21年）4月19日に一般社団法人神奈川県作業療法士会の設立総会を行い、会員約1300人で新たなスタートをきりました。そして、作業療法士として、県民の保健・医療・福祉の向上及び作業療法の普及・啓発に、より一層の社会貢献ができる基盤ができました。そんな折、法人化と共に新しく誕生したのが、学会評議委員会です。

神奈川県作業療法士会として記念すべき第1回学会が開催されたのは、約23年前の1987年（昭和62年）3月7日のこと。それから2年毎に開催され、昨年2009年（平成21年）4月19日に開催された学会で12回を数えました。この間、多くの学会実行委員会の皆様のご尽力により学会運営がなされて、学会運営に関する多くの知識を得ると共に、様々な問題も十分解決されないまま、次の学会実行委員会に引き継がれていきました。日々忙しい臨床業務の傍ら、1年若しくは2年という長い期間をかけて学会を作り上げていく作業は、やりがいがあると共に大変なご苦労であったと思われます。近年では会員の増加により学会の規模も大きくなり（第12回学会の参加者総数478名）、会場の確保が難しくなる一方、学会実行委員会の負担も大きくなってきています。今後の会員増を考えると、学会そのものについて再考しなければならない時期にきています。県士会としてこの先学会をどのように考えていくのか（学会に関する中・長期計画の策定）、学会実行委員会の円滑な運営のためにどのような支援が必要なのか（学会実行委員会への支援）、さらに今までの学会記録をどのように残しておくのか（学会資料の整理と保管）、課題は山積しています。

学会評議委員会誕生から約10ヶ月、非常に地味な性格の委員会ではありますが、学会評議委員会の行動が、学会実行委員会を支援し、素晴らしい学会を作り、その学会が会員及び県民の利益に繋がるように、縁の下の力持ちを特技に成長していきたいと思っています。是非、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、次回の第13回神奈川県作業療法学会は、2011年（平成23年）4月開催予定で、北里大学医療衛生学部の浅井憲義学会長を中心に準備が始まっています。ぜひ会員の皆様には学会運営へのご協力をお願いすると共に、今から学会で発表する準備を始めてみてはいかがでしょうか。

目　次

1　巻頭言　『祝「学会評議委員会」誕生』
2･3　福利部からのお知らせ
4　地域リハ部からのお知らせ
5　各部からのお知らせ
6･7　理事会報告・総会のお知らせ
8　ここへ行ってきた『人形劇団でこぼこ』

福利部　倫理問題対策班からのお知らせ

〈神奈川県作業療法士会における倫理問題への取り組みについて〉

Ⅰ．はじめに

日本作業療法士協会では倫理委員会を設置し、会員の倫理向上を図り、倫理問題へのネットワークを整備してきました。当県士会も協会との連携を図り対応していきます。そこで、万が一職業倫理に抵触すると思われる出来事が起こった場合の県士会での対応の流れを会員の皆様に周知してもらうため、今回掲載させていただくことになりました。「作業療法士の倫理に係る事例集」や協会 HP も参照の上、ご確認をよろしくお願いいたします。

Ⅱ．倫理問題事案の取り扱いの流れ　（次項フローチャート参照）

1．倫理問題相談窓口は以下とする。

・神奈川県作業療法士会　事務局

・神奈川県作業療法士会　倫理問題対策班（以下倫理班）

※日本作業療法士協会（以下協会）では倫理委員会、各部・委員会倫理問題担当者、事務局が窓口。

2．相談の方法

・相談者が、神奈川県作業療法士会事務局に、電話・手紙・面接等で相談する方法。

→事務局から倫理班へ電話連絡。

・相談者が、直接協会倫理委員長（以下倫理委員長）宛に「倫理問題報告書」を提出する方法。

※相談事案は、原則としてメールでは取り扱わない。特に、個人・団体等が特定される内容のものについては、メールでの取り扱いを禁じる。

3．相談窓口担当者は、相談を受けた場合、本人確認を行い、速やかに「倫理問題報告書」にまとめ、相談者から寄せられた手紙等を添付して、倫理委員長宛に提出する。

※倫理班で対応が決定しない場合は、倫理問題等上申書を県士会長に提出する。合わせて協会へ報告。

（相談者本人の承諾が得られた場合のみ）

4．報告を受けた倫理委員長は、各倫理委員に諮った上で、「倫理問題等上申書」として協会長に提出する。

5．協会長は、上申された事案に対する対応方法（たとえば調査委員会の設置、裁定委員会の設置等）を判断し、それを倫理委員会に通知する。

【注意】

・「倫理綱領」等に抵触すると考えられる会員への協会処分等に関するものについては別途定められる。

・事案に対する協会対応に関しては、事案の当事者と相談者に協会長より通知される。

・県士会はあくまで窓口で、対応は協会が決定する。

※参考資料

＜日本作業療法士協会刊行物＞

①作業療法士の倫理に係る事例集～倫理綱領・作業療法士の職業倫理指針の理解に向けて

②作業療法ガイドライン（2006 年度版）

＜日本作業療法士協会 HP＞（倫理委員会、倫理綱領、職業倫理指針）

倫理問題フローチャート（神奈川県士会 ver.）

相談者

連　絡

県士会事務局　※メールでのやり取りは禁！
TEL: 045-663-5997
① 本人・身元確認（会員番号）
② 連絡先（住所・電話番号）
③ 連絡するのに都合の良い時間帯
④ 緊急度の確認
⑤ 福利部担当者から折り返し連絡する旨伝達
その際、協会から発行されている
「倫理問題報告書」を元に、事前に要点をまとめたものをご用意いただくようアドバイス

聞き取りおよび対応方法についての相談

連絡

福利部　倫理問題対策班
担当理事（冨山）および窓口担当者に上記①～④について事務局から電話連絡
※基本的に対応は窓口担当者が行うが、緊急度の高いものは担当理事が直接対応する

窓口担当者が相談者より聞き取りを行う
窓口担当者は相談者より得られた情報の内容を「倫理問題報告書」にまとめ、速やかに担当理事に提出（相談者から寄せられた資料（手紙等）があれば、それを添付）

倫理問題対策班で対応が決定しない場合は、担当理事および窓口担当者が、イニシャルなどを用いて加工したものを「倫理問題等上申書」として県士会長に提出する
合わせて協会への報告も行う（相談者本人の承諾が得られた場合のみ）。

相談・協議

連絡

対応についての協議
① 神奈川県県士会会長＋倫理問題対策班
② ①　＋　三役
③ ②　＋　理事・役員（臨時理事会の招集）
適宜、協会本部倫理委員会と連携を取っていく

相談・協議

協会本部倫理委員会

地域リハ部

地域リハビリテーション部（以下、地域リハ部）では、より地域に基づいた活動を目指していきたいと考えており、その一つとして神奈川県内の障害者団体との交流・連携を推進するための事業を展開していきます。今年度は様々な障害者団体の活動を把握するため、それぞれの会合に参加し、その状況を県士会員にお伝えしています。

今回は、社団法人認知症の人と家族の会神奈川支部の「若年期認知症家族・本人のつどい」に参加しました。

【社団法人　認知症の人と家族の会神奈川支部】

日時：平成21年9月27日（日）・11月22日(日)　11:00～15:00
場所：横浜市旭区　地域生活支援拠点「ほっとぽっと」

＜（社）認知症の人と家族の会神奈川支部の紹介＞

社団法人認知症の人と家族の会（旧呆け老人をかかえる家族の会）は、1980 年に発足した認知症に関わる当事者を中心とした全国的な団体であり、43 都道府県に支部をもっています。認知症の本人、介護家族、認知症の介護に携わる専門職、認知症に関わる医療職や研究者、認知症に関心のある人、ボランティアなどが会員となり活動をしています。

今回取材した神奈川支部の活動は、懇談会（家族懇親会、若年期のつどい、地域のつどい）、電話相談、会報の発行、介護家族のリフレッシュ旅行などを中心に展開されています。また今年度からの新たな取り組みとして、一部の地域（横浜市旭区）で、若年期認知症本人を対象にした「木曜会」というグループ活動を週1回行っています。

＜「若年期認知症家族・本人のつどい」への参加＞

2ヶ月に一度に定期開催されている「若年性認知症家族・本人のつどい」に9月と11月の2回にわたり参加しました。

会には、ご本人・ご家族・世話人の方々・代表の石心会川崎幸クリニック院長の杉山孝博先生はじめ医療･福祉関係者など総勢40名を上回る方々が参加していました。ご本人とご家族が一緒に参加する方々や、ご家族のみ参加する方、そのなかにはお子さんの姿もありました。

活動は、ご本人とご家族に分かれて行われていました。家族懇親会では、一人一人の参加者が、介護生活の様子や悩み等を話され、周りの参加者からは、介護上のアドバイスや制度の有効利用について等、経験に基づいた具体的なアドバイスが交わされました。杉山医師からは、医学的な情報提供や、認知症者の行動が持つ意味や関わり方の工夫について非常に参考となるわかりやすい説明がありました。午前・午後を通して約3時間にわたる、実に活発で有意義な意見交換の時間でした。

本人の部では、午前の活動として、近くのスーパーマーケットまで参加者の昼食の買い出しに行きました。世話人と一緒に必要な数を確認しながら、皆さんが好みのお弁当・お菓子を選びました。午後の活動では、9月は散歩とカラオケ、11月は室内レクリエーションを行いました。レクリエーション内容は、自己紹介と出身地紹介、歌体操、新聞紙を使った対戦式ゲーム、食べ物しりとり等です。普段は外出活動が多いため、天気の悪い日に取り組める活動を取り入れたいという世話人からの提案により、当日参加した部員が中心となってレクリエーションを行いました。

＜おわりに＞

参加したご家族や世話人の方々からは「作業療法士が地域でどのような活動しているのかわからない」「認知症に作業療法士は関わっているのか？」といった声が聞かれました。また同時に、「認知症本人の活動について、作業療法士のアドバイスがあるとよい」とも話して頂きました。認知症者とそのご家族の生活支援に関わる職種として、作業療法士が地域により多く活動を広げていく必要性を改めて感じる機会となりました。

社団法人認知症の人と家族の会神奈川支部の活動を、活動を必要とされる方に是非お知らせください。
社団法人認知症の人と家族の会 HP（http://www.alzheimer.or.jp/jp/index.html）

（文責：地域リハ部　笹森　河村）

教育部

連載！「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「1 月は往ぬる、2 月は逃げる、3 月は去る」、年明けは月日が経つのが本当に早いです。今回は、今年度最後の研修会情報と、生涯教育制度関連手続きをご案内します。ちょうど年明けと年度変わりのこの時期に手続きをお願い致します。

①現職者共通研修：2 月 20 日（土）～21 日（日）;「事例検討」、「事例報告」

②現職者選択研修：1 月 31 日（日）; 発達障害領域

＊①②ともぎりぎりまで受け付けますので、前号のチラシ、ウェブサイトをご参照頂き、締め切り後でも教育部にお問い合わせください。

③生涯教育制度関連手続き：まずは、研修会等でもらった参加証明書をポイントにする手続きをしましょう！ポイントとなる研修会か確認し（不明時教育部に確認ください）、県士会事務局に生涯教育制度受講記録、参加証明書、協会会員証コピー、返信用封筒（切手貼付、宛名記入）をお送りください。ウェブサイトに詳細がありますが、不明な場合どんなことでも今すぐお問い合わせください。

その他、基礎研修修了申請・更新、認定作業療法士申請・更新などご自分の進度をご確認ください。とくに認定作業療法士未更新の方は、猶予期間の 2 年間を含めた直近の 5 年で更新要件を満たせば更新申請可能です。

教育部 奥原孝幸（昭和大学保健医療学部作業療法学科）
電話：045-985-6500（代）　電子メール：kyoiku@kana-ot.com

ウェブサイト管理委員会通信

「県士会事務局に聞きたいことがある」

県士会に質問があっても対応時間内に電話するのは，面倒ですよね．そんなときには県士会サイトをご活用ください．

県士会サイトでは事務局への問い合わせ用入力フォームを設置しています．ホーム（トップ）ページの上部中央にある「問い合わせ」をクリックすると入力フォームが出てきますので，そこに必要事項・質問・意見等を記入し，下部の「送信する」を押してください．事務局にはメールの形で内容が送信されます．あとは，事務局等から返事が来るのをお待ちください．

県士会サイトでは事務局宛て以外にも，OT 協会生涯教育制度についての問い合わせフォーム（教育部宛），社会保障制度についての問い合わせフォーム（社会保障制度対策委員会）も設置していますので，必要に応じてご活用ください．

平成 21 年 11 月アクセスランキング

1 位　再学習・筋触診：記事ページ　6258 件
2 位　求人情報掲載板　4029 件
3 位　講習会・研修会　3842 件
4 位　オリジナル自助具 INDEX　2006 件
5 位　作業療法 Tips：記事ページ　1330 件

平成 21 年 11 月県士会ブログランキング

1 位　ひよっこ OT 日記　514 件
2 位　ウェブ管的知恵袋　340 件
3 位　鍼灸（中国）＋作業療法（日本）＝ 311 件

平成 21 年 11 月
更新件数：41 件　訪問者延べ数：9842 人
Kana からの手紙発行回数：7 回
9 月末のトップページカウンタ数：446071

事務局⇒http://kana-ot.com/general/q_jimu.htm
教育部⇒http://kana-ot.com/bu/sk_kana.htm（最下部）
社会保障制度⇒ブログ：ニーハオ社会保障制度対策委員会
URL：http://kana-ot.com/　（文責：ウェブサイト管理委員会　作田）

平成２１年度　第４回　神奈川県作業療法士会理事会　抄録

日時：平成21年11月19日（木曜日）19:00 ～21:30	場　所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：錠内、浅井、木村、作田、鈴木、冨山、中西、野々垣、野本、原、澤口
委任理事：渡邉、佐藤、奥原、机、山路　　出席監事：長谷川、清宮　　出席事務局員（書記）：友利、名古屋
その他：東・安部（学術部員）、松本（広報部員）

●事務局（澤口事務局長）
１）渉外活動
①神奈川県病院医療関係団体連絡協議会／9月30日（木）渡邉会長　②神奈川医療専門職連合／11月6日（金）渡邉会長・錠内副会長　③栃木県作業療法士会法人設立記念式典及び祝賀会（10月17日）ご臨席依頼⇒祝電にて対応　④横浜YMCAより創立125周年記念式典（11月8日）ご臨席依頼⇒祝電等にて対応　⑤小田原地区30周年記念糖尿病週間行事／11月15日（日）澤口
⑥「高校生新聞社」より作業療法士１名の紹介依頼あり⇒横浜相原病院のOTの方を紹介。取材を受託し新聞に掲載済
⑦NOVA出版より「精神科・老人施設求職ガイド：特集」取材のため、県士会会員紹介依頼あり：特集記事テーマ：「精神科の看護・コメディカルは身体合併症とどう向き合っているか？」⇒藤沢病院にて取材済
２）他団体より周知依頼
①神奈川県保険医協会より「第14回医療・健康フェスティバル」／11月3日（火・祝）場所：横浜駅東口・新都市プラザ／内容：健康度チェック・無料測定（血圧・血管年齢チェック・歯のかみ合わせ）／無料相談コーナー（からだと病気・歯とお口）
②（社）かながわ福祉サービス振興会よりフォーラム「ケア時代の介護のあり方」／12月10日（木）場所：横浜ラポール　シアター内容：「介護の時代とは何か」　③大阪緩和作業療法勉強会より研修会「がん・緩和ケアにおける作業療法」／平成22年3月27日（土）～28日（日）場所：堺市民会館（大阪府）　④「かながわ地域リハビリテーションフォーラム」共催依頼⇒三役会承認／平成22年2月13日場所：県立かながわ労働プラザ　主催：神奈川県リハビリテーション支援センター
⑤第8回神奈川県介護支援専門員研究大会への協賛依頼⇒協賛のみ（三役会承認）／日時：平成22年3月28日場所：レイ・ウェル鎌倉、主催：NPO法人神奈川県介護支援専門員協会／「階（きざはし）～地域から始まるホップ・ステップ・ジャンプ～」
⑥かながわ福祉サービス振興会より「第3回神奈川県特定施設研究大会」後援依頼⇒三役会承認／日時：平成22年2月26日場所：戸塚公会堂／基調講演　北原　照久（横浜ブリキのおもちゃ博物館館長）
３）WFOT関連やOT協会関連
①WFOT第1回組織委員会開催／9月27日（日）出席：（協会側）錠内会場実行委員長、（県士会側）渡邉会長、名古屋事務局次長
②WFOT世界大会の企業コンベティション／11月7日（土）出席：澤口事務局長、４社から２社へ厳選された。
③「作業療法推進活動パイロット事業助成制度募集」について⇒報告事項・地域リハに記載⇒三役会承認
④都道府県連絡協議会より「作業療法5ヵ年戦略」に関する周知教育研修希望集約について⇒当士会としても開催希望する
●財務部（野々垣理事）
会費納入：10月31日現在、納入率73.74％（前年同月66．37％）。2回目の督促状送付済。納入〆切12月末日
●学術部（中西理事）
１）研修会終了報告
①生涯教育講座「職場管理者養成講座」10／3（ウイリング横浜）「臨床でのリスク管理について」受講者数：95名
②分野別講習会「精神障害分野」10／12（ウイリング横浜）「精神科における身体障害評価とアプローチの基礎」受講者数：47名
③分野別講習会「身体障害分野」10／24（市大センター病院）「脳卒中の急性期作業療法　基礎から応用」受講者数：48名
④生涯教育講座「実習指導者養成講座」11／7（ウイリング横浜）「教育方法論」受講者数：20名
２）講習会開催予定
①分野別講習会「身体障害分野」1／30（横浜YMCA学院専門学校）「はじめての嚥下障害の評価と治療」
②分野別講習会「精神障害分野」1／30（横浜YMCA学院専門学校）「精神科における実践報告」
３）第29回神奈川県病院学会報告／11月5日／学会運営協力委員やシンポジストでの参加をした
●教育部（澤口事務局長代読）
①事例報告登録制度研修会終了／10月18日（ウイリング横浜）参加者数：15名
②第2回現職者共通研修終了／11月15日（ウイリング横浜）参加者数「職業倫理」105名、「作業療法の可能性」103名
●広報部（野本理事）
１）健康生活展ブース出展／11月7日／一般県民に対する啓発活動／記憶力のチェックおよび作業療法の説明／参加者：100名
２）推進月間内での施設見学会終了報告／見学参加者数：8名、見学実施施設数：6ヶ所
●福利部（冨山理事）

第２回一般社団法人神奈川県作業療法士会総会は４月下旬開催予定です。今から日程調整をお願いします。
総会は正会員構成員の１／３以上の出席がなければ成立しません（定款第29条）。11月末現在1474名の会員数です。ですので、11月末で491名以上の出席が必要です。総会が成立しないと県士会活動が執行できなくなり、会員や県民の皆様にも多大なご不便ご迷惑をおかけします。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。（事務局：澤口）

１）倫理問題：ＯＴ協会倫理委員会状況確認／相談件数延べ30～40件／現在の所話を伺うレベルまで。上申書提出までは至らず
２）次年度の企画案提出：「職場見学会」若手、一人職場の会員を対象に、実際に他施設を見学、先輩OTの相談できる機会の提供⇒継続して検討

●企画調整委員会（浅井理事）⇒上半期の事業実施経過報告を提出すること。〆切12月20日

●地域リハビリテーション部（木村理事）

１）研修会終了報告

①第5回地域リハビリテーション勉強会／11月8日（ウイリング横浜）「どうなる？就労支援パート２」～精神障害者の就労を支えるために地域で必要なこと～／参加者数：28人

２）研修会開催予定

①第17回PTOT地域ケアネットワーク合同研究会／2月14日（横浜リハビリテーション専門学校）「PTOTの可能性～広がる職域～」講師：森本　榮氏（日本PT協会理事）

３）ＯＴ協会からの「作業療法推進活動パイロット事業助成制度募集」について
課題：「神奈川におけるALS者のコミュニケーション障害に対する当事者、作業療法士、他の医療・福祉関連職からなる支援体制整備」⇒三役会の承認を経てＯＴ協会へ申し込み済み⇒事業が承認されれば、学術部、広報部、福祉用具委員会から人員参加の協力を希望する

４）日本てんかん協会神奈川支部および脳卒中友の会の会合に参加⇒県士会ニュースで報告予定

５）訪問実施事業所のウェブサイト掲載に向け、動向調査中

●福祉用具委員会（澤口事務局長代読）

１）研修会終了報告

①平成２１年度　スキルアップ研修会～在宅での福祉用具適合相談のために～／10月18日（ウイリング横浜）10月31日（横浜リハビリテーション専門学校）11月１日（横浜リハビリテーション専門学校）参加者ＯＴ26名ＰＴ15名

２）研修会開催予定

①「コミュニケ―ション機器におけるＯＴの役割と実践」12／20（ウイリング横浜）講師：田中　勇次郎

②自助具研修会／1月31日（横浜リハビリテーション専門学校）講師：錠内　広之

３）その他：神奈川工科大学卒業生より、福祉用具ネットワーク作りの依頼あり⇒依頼内容の確認作業中

●ウェブサイト管理委員会（作田理事）

１）法人化後のHPのリニューアル
「定款」は抜粋版を閲覧・ダウンロードできるように変更する／「個人情報保護ポリシー」は「規定」を閲覧・ダウンロードできるように変更する／「入会案内」は新「定款」に沿って入会条件を変更する

２）県士会サイトへのアクセス件数報告　　３）レンタルサーバーの容量を追加済み

●学会評議委員会（原理事）
毎年県士会学会開催に向けて：通常規模の学会を開催するには、難しい。小規模な学会と通常規模学会を交互に開催する方法を検討中

＜検討事項＞

●学術部（中西理事、東部員、安部部員）

①学術誌刊行事業班より予算案提出⇒2月の財務状況を見て予算案AもしくはB案を決定する

②研究助成に対する予算案提出⇒企画調整委員会と継続協議

●広報部（野本理事）

①県士会ニュース印刷発送業者の変更案⇒変更する　②広報グッズの作製⇒必要であれば随時実施を

＜その他＞

●監事（清宮監事）
中間監査報告：活動および収支に関してはおおよそ健全に遂行されていることを認める。活動記録や現在の記録用紙の改善などを提案する

※次回の理事会：平成22年1月21日（木）19時より　県士会事務所

※議事録の詳細は県士会ウェブサイトをぜひご覧下さい。　（文責：澤口）

ここへ行ってきた

みんなちがって、みんないい
当事者と家族の人形劇団「でこぼこ」

♪あなたがともした小さな灯りが　たとえどんなに小さくても　きっと誰かを励ましている　きっと誰かをささえてる♪

このフレーズは現在練習している人形劇「すてきなホーム」の挿入歌「あかりをともそう」の一節です。一人の力はわずかでも、合わさることで大きな力となっていく…。人形劇団「でこぼこ」の活動にはそんな思いが感じられます。

当劇団は厚木市内に拠点を置き、主に病院や介護施設の慰問活動をしています。劇団員は心の病を持った当事者とその家族、そしてボランティアの方々などで構成されており、週に1回程度練習を行っております。劇の内容はオリジナルストーリーが主体とのことで驚きです。今回は気持ちが伝わる練習を取材させて頂きました。

和気あいあい、そして真剣そのもの

－劇団員の皆さん－

休憩中に伺ったところ、非常に和やかなムードでありましたが、いざ練習が始まるとプロ顔負けの演技力です。台詞の読み合わせでは団員皆さんの口調が変わり、雰囲気に引き込まれていきました。さらにその日は歌唱練習となり、私も一緒に加わっての合唱となりました。その中でメンバーの一人が歌詞の一部変更を提案。みんなで話し合う中で変えることとなりました。この柔軟性が一つの特徴のようです。

モットーは「みんなちがって、みんないい」

人形劇の楽しさをみんなに知ってもらい、みんなで分かち合いたいという趣旨のもと、平成16年頃より活動を始めました。障がいに関わらず、それは個性であり、みんなちがってでこぼこだけれども良いものを必ず持っている。そんなメッセージが劇団名「でこぼこ」には込められています。

－手作りの人形です－

人形劇は人形の製作や道具、ステージ、音響の準備等様々な役割をこなしてできるものです。そのような役割を無理せずに自分ができるものを行い、時にはそれを他メンバーが補いつつ活動している姿が練習からも感じとれました。でこぼこでは障がいという概念を取り払い、みんな一人の人間として活動しています。活動中に当事者、障がい者という言葉は使っていません。団員として興味のある方、公演を依頼したい方は県士会事務局、もしくは電子メール kaot@kana-ot.com までご連絡下さい。（千葉）

一般社団法人神奈川県作業療法士会ニュース ＜141号＞ 2010年1月発行（年6回発行）
発行責任者　渡口慎一
編集責任者　野本義則
編集担当　松本政悦・大宮幸恵・岡田安紀子・菊池美帆・千葉友浩・馬場順子・中村美穂・矢野竜也
印刷　発送　障害者就労移行支援事業所　港風舎
事務局　〒231-0011　横浜市中区太田町4-45第一国際ビル301号　TEL/FAX:045-663-5997
月火水木金　10：00～16：00　　メールアドレス：jimu@kana-ot.com
神奈川県作業療法士会ウェブサイト http://kana-ot.com/　作業療法　神奈川　検索